

7月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比D I 値の動き

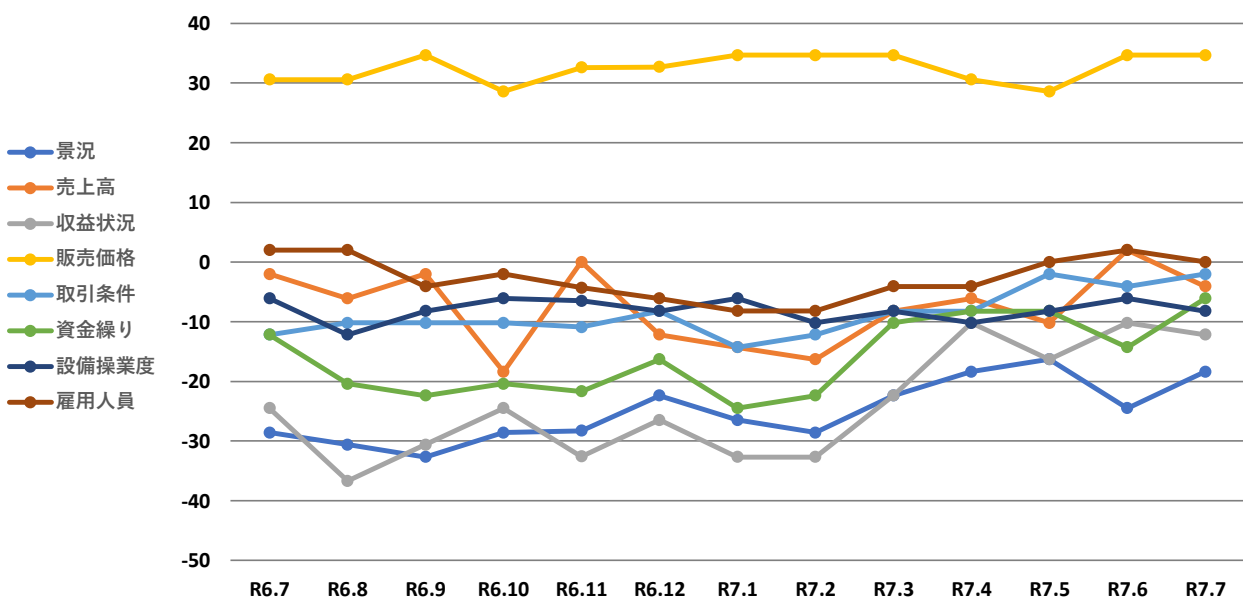
令和7年7月のD I 値は8指標中、「景況」「取引条件」「資金繰り」が上昇、「販売価格」が横ばい、「売上高」「収益状況」「設備操業度」「雇用人員」が下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

県内中小企業の景況は依然厳しく、物価高騰や人手不足が経営を圧迫しているほか、猛暑や少雨といった異常気象の影響が深刻化している。製造業では、味噌生産は前年並みを維持したが出荷量は減少し、価格改定と需要停滞が影響。縫製業はコスト増を転嫁できず、老朽設備維持に苦慮し、特定技能資格の活用を模索。木材関連は住宅着工減や丸太不足、建築確認の遅れで稼働率が低迷。印刷業は需要減と紙離れ、競争激化で収益悪化。生コンクリートは一部で出荷増も資材高や工事減少で厳しい。鉄鋼・金属は売上・操業度が持ち直す一方、人材不足や米国関税への懸念が残る。非製造業では食糧卸売業が猛暑や水不足で農作物の作柄悪化を懸念。小売業は食品が堅調な一方で衣料や住居関連は低迷。電気機器は猛暑でエアコン販売が好調。昼業は新築やリフォーム需要が出たが、酷暑で作業負荷が大きい。商店街は暑さで人出が減り物販回復は鈍い。サービス業では自動車整備業で中古車販売は堅調だが新車は減少。旅行業は資金繰りや制度対応が重荷となり、地方事業者は厳しい。ビル管理は人材不足が続く外国人労働者の定着が課題。建設業は資材高と倒産増が懸念される一方、工事発注は一部増加。運輸業は燃料高止まりと荷動き減少が続く、長距離撤退も見られる。米国関税の影響も懸念され、企業は柔軟な対応を迫られている。

	R6.7	R6.8	R6.9	R6.10	R6.11	R6.12	R7.1	R7.2	R7.3	R7.4	R7.5	R7.6	R7.7	前月比
景況	-28.6	-30.6	-32.7	-28.6	-28.3	-22.4	-26.5	-28.6	-22.4	-18.4	-16.3	-24.5	-18.4	6.1
売上高	-2.0	-6.1	-2.0	-18.4	0.0	-12.2	-14.3	-16.3	-8.2	-6.1	-10.2	2.0	-4.1	-6.1
収益状況	-24.5	-36.7	-30.6	-24.5	-32.6	-26.5	-32.7	-32.7	-22.4	-10.2	-16.3	-10.2	-12.2	-2.0
販売価格	30.6	30.6	34.7	28.6	32.6	32.7	34.7	34.7	34.7	30.6	28.6	34.7	34.7	0.0
取引条件	-12.2	-10.2	-10.2	-10.2	-10.9	-8.2	-14.3	-12.2	-8.2	-8.2	-2.0	-4.1	-2.0	2.1
資金繰り	-12.2	-20.4	-22.4	-20.4	-21.7	-16.3	-24.5	-22.4	-10.2	-8.2	-8.2	-14.3	-6.1	8.2
設備操業度	-6.1	-12.2	-8.2	-6.1	-6.5	-8.2	-6.1	-10.2	-8.2	-10.2	-8.2	-6.1	-8.2	-2.1
雇用人員	2.0	2.0	-4.1	-2.0	-4.3	-6.1	-8.2	-8.2	-4.1	-4.1	0.0	2.0	0.0	-2.0

DI値の推移



徳島県 中央会情報連絡員報告総括表 (令和7年7月)

情報連絡員数	49	名	回答者数	49	名	回答率	100.0	%
--------	----	---	------	----	---	-----	-------	---

業界の景気動向(前年同月比)

		売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員			業界の景況		
		増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化
製造業	食料品	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0	0	4	0
	繊維工業	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0
	木材・木製品	0	3	3	2	3	1	1	5	0	1	5	0	0	3	3	0	5	1	0	5	1	0	4	2	0	2	4
	紙・紙加工品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	印刷	0	1	1	0	2	0	1	1	0	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1	1	0	2	0	0	0	2
	化学・ゴム	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	窯業・土石製品	1	1	0	0	2	0	2	0	0	0	2	0	1	0	1	1	0	1	1	1	0	0	2	0	1	0	1
	鉄鋼・金属	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	2	0	0	1	1	0	2	0
	一般機器	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0	1	0
	電気機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	輸送機器	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小計		1	15	4	2	17	1	4	16	0	1	18	1	1	13	6	1	17	2	1	17	2	0	16	4	1	12	7
非製造業	卸売業	1	2	0	0	3	0	2	1	0	0	3	0	1	2	0	1	2	0				0	3	0	0	3	0
	小売業	1	4	2	0	6	1	4	3	0	0	6	1	0	6	1	0	6	1				0	6	1	0	6	1
	商店街	1	2	1	1	3	0	2	2	0	0	4	0	0	3	1	0	3	1				1	3	0	0	3	1
	サービス業	2	3	1				2	4	0	0	5	1	0	6	0	0	6	0				1	5	0	0	6	0
	建設業	2	3	1				2	4	0	0	6	0	1	5	0	0	6	0				3	3	0	1	4	1
	運輸業	0	2	1				1	2	0	1	2	0	0	2	1	0	2	1				0	3	0	0	2	1
	その他	0	0	0				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0	0	0	0	0	0
小計		7	16	6	1	12	1	13	16	0	1	26	2	2	24	3	1	25	3				5	23	1	1	24	4
合計		8	31	10	3	29	2	17	32	0	2	44	3	3	37	9	2	42	5	1	17	2	5	39	5	2	36	11

〔景況関連の報告〕

【製造業】

<食 料 品>

1. 味 噌・みその生産量は、前月比107.8%と増加したものの、前年累計比100.3%でほぼ前年並み確保。出荷量は、前月比97.4%、前年同月比91.8%、前年累計比99.0%と前年を下回る水準で4月以降低調に推移している。製造原価の高騰をカバーするため販売単価の見直しを図っており、出荷量減少の要因の一つとなっている。また、6月中旬以降の特記事項として少雨と記録づくめの猛暑が長引くなか、物価高騰と消費低迷が出荷量減少に大きく影響しており、今後の動向が懸念される。

<繊維・同製品>

2. 縫 製・引き続き、仕入他諸経費の増大が激しいにもかかわらず、売値に反映できない状態が継続中。工程設備については、日本国内で調達不能の機械のトラブルが続いている。機械に精通している企業は、極めて少なく、老朽化した設備を補修しつつ維持している状況である。この現象は弊社に限らず、日本の同業界での共通問題と化している。日本で生産している企業がないこと、海外から輸入しても圧力容器検査で問題が生じることなどを考えると、政府としての対策が必要と思う。人材確保手段として、特定技能の縫製業の資格を申請中である。

<木材・木製品>

3. 製 材・戸建て住宅が建たず、相変わらず製材品の動きが悪く、単価は上がらない。建築基準法改正の影響もあって、プレカット工場の稼働率は5月、6月は悪かったが、7月は少し持ち直している様子。例年、丸太が不足する時期ではあるが、今年は特に少なく、稼働率を下げている製材所も出てきている。極端な暑さも山の仕事に影響しているようだ。
4. 製 材・住宅着工の減少により例年になく厳しい状況が続いている。
5. 木 材・住宅着工減、原木減、コスト高、暑さとひじょうに厳しい環境である。
6. 木 材・今年7月に入っても4月1日から施行された構造計算込みの建築確認が市町村からなかなか許可が下りない状況がいまだに続いています。木造住宅の新築をこれから建てようと希望する人が、どんどん減っていくような気がしてたまりません。

<印 刷>

7. 印 刷・6月は総会など定期行事があるものの、7月は年間を通じてイベントや催しが少ない月になる。毎年のことではあるが7月に入ると入稿が急減し、社内も閑散とした雰囲気になる。一方で8月は阿波踊りを始めとする多くの行事やイベントが開催される。こうした機会を逃さず、お客様からさらなる需要を引き出す工夫と実行を積み重ねて行くことが重要だ。また比較的余裕がある時期だからこそ、将来を見据え、意識的に新しいことにチャレンジする余裕を持ち、印刷につながる営業活動にも積極的に取り組む姿勢を持ち続けたい。
8. 印 刷・7月にはいっても明るい材料は少なく苦しい経営状態が続いている。依然として紙離れの歯止めがかからず、昨年受注した仕事が今年はなくなったり、数量を少なくしたりと、明るい兆しが全く見えない状態である。県、市の入札案件に関しても今まで入札に参加してなかった企業が参加してきてかなり無茶な金額で落札している状況もあるみたいだ。収益を確保していくためにはどのようにしていけばいいのか頭の痛いところである。

<窯業・土石製品>

9. 生 コ ン・7月の出荷量は昨年同月と比べて約69%増加。今年度はここまで民間特需工事のおかげで昨年度と比べて一時的に出荷量が増えている。しかしそれが一段落した後は出荷量に影響が出そうである。
10. 生 コ ン・7月の出荷数量は、対前年同月比横ばいであった。4月～7月の通期においては4%の減少にて、出荷状況は変わらず、新規大型公共工事の減少及び資材費の高騰及び現場監督不足により予算執行が進まず先行き不透明となっている。収益については、価格引上げにも関わらず、資材高騰及び大幅な出荷数量の減少という結果により、経営環境は依然として厳しい。

<鉄鋼・金属>

11. 鉄 鋼・業況感は、「緩やかに回復しつつある」とされており、現況においても売上および設備操業度にやや回復傾向が見受けられる。ただし、依然として人材不足の課題が残っており、米関税政策による経済への悪影響や人件費の高騰が続く中、今後も厳しい経営環境が続くと予測される。
12. ス テ ン レ ス・景況感に大きな変動は感じられない。当社の受注残高としては昨年からの海外需要もあり高止まりしているものの、今後については米国の通商政策等により15%関税となる状況から先行きの不透明感は払しょくできない。また、国内においては、消費者物価の上昇が継続するなか鈍化も見られるが、消費者マインドの改善に至るまでの影響はなく、顧客メーカーの設備投資意欲への刺激減少が心配される。

<一般機器>

13. 機 械 金 属・一部には景況感の持ち直しの動きも見られるものの、引き続き、原材料費、労務費、エネルギーコストの高騰に加え、経済・外交政策の変化や国際情勢の緊迫化など、諸々の不安定要因により、先行きが見通せない不透明な経営環境に大きな変化は見られない。また、従業員の確保や生産性向上、人材育成などが、依然として、経営上抱える課題として見受けられる。

【非製造業】

<卸 売 業>

14. 食 糧 卸・新米(令和7年産)の主食用作付が6年産に比べ56万トン程増える見込みだそうです。この猛暑と水不足で作柄の低下が見込まれます。

<小 売 業>

15. ショッピングセンター・全館の売上は100.1%、客数は98.4%で客単価は101.2%と微増です。食品は103.3%堅調に推移しています。衣料は99.9%・住居関連は90%と若干落ちています。
16. ショッピングセンター・組合員店舗で昨対を超えてきたのはわずか1店舗で7月も厳しい月となったようだ。売上を維持そして上げているお店はかなりの努力をされているように思われる。景気の変動にも上手に対応ができていることが安定感に繋がるようだ。
17. 電 気 機 器・連日の猛暑でエアコンの動きが順調。他商品は買換需要を中心に大きな変化なし。
18. 量 ・猛暑の中、仕事があってもなくても苦しい。体調を崩さず7月を乗り切れば、それだけで丸儲け。そんな言葉を交わしながら、なんとか7月が終わった。新築とリフォームが後半になってできた。個人の表替は少ない。営業用も少なかった。見積み依頼は数カ所あった。

<商店街>

19. 徳島市・暑さの影響でなかなか人が出てこない状況が続いています。キャッシュレス決済ポイント還元事業でコード決済を利用される方が多かったです。こういったイベントがまたあれば嬉しいです。
20. 徳島市・飲食店は盛況のようだが物販に関してはあまり売上高は改善されていないようだ。

<サービス業>

21. 自動車整備業・7月度の自動車販売状況については、登録車の新車販売台数のみ前年を下回ったが、中古車販売台数が対前年同月比4.7%増となった。軽自動車も新車・中古車販売台数ともに前年を上回り、トータルでは対前年度比2.6%増という結果。全国的にみても、今月期の新車販売台数は前年割れとなったようだ。景気動向調査では国内景気が2ヶ月連続で悪化しており、特に個人消費の低迷が指摘される。その苦境が新車販売市場でも顕在化したようである。収益状況の目安とみている継続検査の台数は、登録車が対前年同月比1.0%減、軽自動車は3.1%増という結果。厳しい状況が続いている。
22. 広告業・そもそも受注が少ない。
23. 旅行業・旅行業は、収益が増加と悪化の調査票が半々でした。コロナ禍で無利子での借入れの返済にも、現況で支払いが大変厳しく、賃金や物価上昇などで資金繰りが困難だという声がきかれています。また、コロナ禍で優遇されていた5年に一度の旅行業登録更新を迎える会員は、基準資産において更新が難しくなっている会員も多数あります。今回はなんとか出来ても次はもう無理かもしれないなどと厳しい声もききます。地方の中小の旅行業は厳しい現況にあります。
24. 土木建築業・○設計人数(少数減)：技術員単価増により前年度と大差なし。○人員増加(企業努力)による設備追加：電子機器増。○収益・施設投資：国・4月から技術員単価増により各給与増額、前年度と大差なし。7～9月に向けて器材等準備。○雇用人員：設計人数(2～3名減)、配置人員数名増。8月から女性技術者(資料作成業務)採用。○業界の景況：国職員の削減、能力不足等の上、予算が例年より国土強靱化の終了[防災事業の減]により前年度より26%減ですが、現場労働者・技術員不足により、技術支援業務は(当組合も含む)忙しい。
25. ビル管理・前年同期と比べ大きな変化はありません。引き続き人手不足対策が課題となっていますが、現在の採用環境では抜本的な解決は困難な状況です。このため、勤務時間や業務内容の調整を行うなど、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場環境の整備を進めているところです。また、外国人労働者の活用を図るため、言語支援や生活支援等を実施するなど、安心して働き定着できるようサポート体制の強化に取り組んでいます。

<建設業>

26. 鉄骨・鉄筋工事業・トランプ関税や物価上昇による先行き不透明から物件の中止、延期が出ている。雑工事や金物の見積もりはあっても建物の見積もりは少なく、あっても価格に注意が必要。工程管理を徹底しないと利益を出すのが厳しい。資格取得、給与改善の努力をしながらも結局はブラック企業に陥りはしないかという不安がある。
27. 建設業・発注工事が増加した。発注者別では、市町村が減少したが、他は増加している。請負額では国、独立行政法人、徳島県、市町村が増加した。建設資材価格の高騰や人件費等が上昇するとともに、不況型倒産が増加している。
28. 板金工事業・工事件数は少ないままの状態が続いています。事業所ごとの受注量の差がでています。公共工事も出始めていますが、例年より少ない状況です。

29. 電 気 工 事 業・徳島県内 令和7年7月分の戸建住宅新築件数138件(前年比91.4%)

<運 輸 業>

30. 貨 物 運 送 業・7月の売上は対前年同月比△6.9%、利益△3.4%と今年順調にスタートしましたが、今月に入り荷物の減少が見え始めました。燃料価格の高止まり、物価高に加え、人材不足の影響もあり、荷動きが低迷しているとの意見も聞かれます。又、長距離運行する会社が撤退した話をよく耳にします。今後も労働時間を守ることが難しい運行を避ける傾向は続くものと思われます。一件あたりの運賃指数は昨年より上がり、運賃の交渉が進んだ結果と見られますが、荷動きが悪くなり値下げを要求された話も聞きます。
31. 貨 物 運 送 業・組合員の増加に伴い仕事の件数を増やす為に多少値を下げて受けているが、物流自体が増えてきている印象を感じる。ここで燃料代を含めた必要経費が下がってくればありがたいのだが。今後も視野を広く持ち、柔軟に対応をしていく。
32. 貨 物 運 送 業・青果物、飲料の荷動きはよかったようである。ガソリンの暫定税率廃止で、マスコミ等はにぎわっているが、今回は、ガソリンのみで、大半が軽油を利用している運送業界は、逆にガソリンとの価格差がなくなりメリットが感じられない。さらに、米関税の影響が懸念される。